

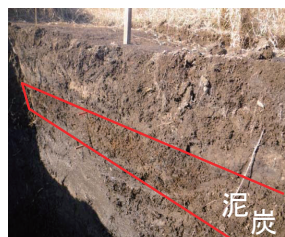
十勝川下流域での河道掘削

平成 18 年で浚渫作業が終わり、現在は流下能力向上のため、河道掘削工事（川の断面積を拡げる工事）を主に行っています。掘削の発生土は泥炭が大きな割合を占めていました。

泥炭は、含水比が高く、軟弱で軽い加重で圧縮されるため地盤沈下を起こしやすいという理由から堤防盛土等に使用すること不適切であったことから、土捨場の確保に苦慮していました。



重機による河道掘削



泥炭とは・・・

湖沼や低湿地に生育したヨシ、スゲなどの植物遺体が、分解が進まない低温や水分過剰などの条件下で、長年にわたり堆積したもの

泥炭活用

泥炭の有効利用法を調査したところ、畑地の土壌改良材となる可能性が見いだされたことから、管内の地方自治体に泥炭の利用に関する聞き取り調査を行いました。その結果をもとに、豊頃町において湿害が多く土壌改良が必要な農地に、泥炭を客土し、そして処理コストを縮減することができました。

豊頃町の他に浦幌町、池田町、幕別町にも泥炭を提供し、農地の生産性向上に寄与しています。



泥炭の農地への客土施工状況



泥炭搬入あり



泥炭搬入なし

てん菜の生育状況

<十勝川下流域の農地の特徴>

- ・粘土含有分が多く透水性が著しく不良で降雨により過湿状態になり作物に湿害が生じる
- ・乾燥時は干ばつを招きやすく、土壌が強く団結して耕運が困難

↓ 泥炭を農地に提供（無償）

<土壌の改善効果>

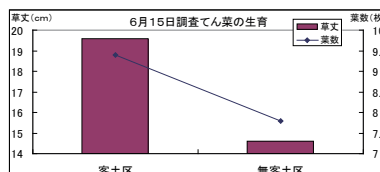
- ・有機物の蓄積生が高い
- ・土壌の膨軟化や保水性の改善
- ・土壌の保肥力を高める効果

<泥炭提供によるメリット>

- ・農作物の収穫量が増加
- ・泥炭の処理コストの縮減

<泥炭提供によるデメリット>

- ・泥炭の搬入作業は、農業のない冬期に限られる



客土区のほうが草丈及び葉数の生育が良い

<泥炭の土壌改良材としての課題点>

- ・泥炭は均質ではないため事前に化学分析が必要
- ・リン酸、pH が低いほ場への客土は避けるか、その対策資材も合わせて投入する必要がある
- ・泥炭は元来窒素が少ない上、分解時に窒素を吸収すると考えられるため、作物の種類と生育状況に応じた窒素追肥が適宜必要
- ・客土深は 10cm 程度で良いが、客土の効果をより引き出すためには心土破碎等による排水性改善と、ほ場土との適切な混和が必要